



難病患者の支援者に届ける、難病医療  
連絡協議会からのニュースレター

### ごあいさつ

平素は、岐阜県難病医療ネットワーク事業にご理解、ご協力賜り厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスが5類になり、いよいよウイズコロナの時代になりました。そこで、令和5年度は、感染予防対策を講じて、久しぶりの対面方式の研修会を計画しました。今年から仕事と治療の両立支援をテーマに取り組みます。今話題の長短時間雇用や関係機関の取り組み事例の情報をお届けしますので是非ご参加ください。今後ともネットワーク事業へのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます（拠点病院事務局一同）

### 発行者

岐阜県難病医療連絡協議会事務局  
令和5年9月  
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1  
岐阜大学医学部附属病院  
総合患者サポートセンター内  
TEL：058（230）7100  
<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/official/nanbyo.html>

### ニュースのトピックス

#### 令和5年度難病ケアコーディネーター等研修会（シンポジウム）のご案内

今年度より難病患者の「治療と仕事の両立支援」をテーマに開催していきます。  
医療、保健、福祉、労働分野の関係者の方へ、パネリストから今回のシンポジウムの見所を裏面で語っていただきました。就労相談を受けたとき、「どうすりゃいいんじゃ！」のヒントになる研修会です。3年ぶりの対面研修会で、お会いできるのを楽しみにしております。

## 難病患者の就労支援について

～超短時間ワークの可能性～★超短時間ワーク事例は裏面参照



日時 10月13日（金）13:30～16:10（受付3時）

会場 岐阜大学医学部附属病院（岐阜市柳戸1-1）  
1階 多目的ホール

事前申込制  
参加費無料

### プログラム

#### ●講演

新しい雇用の形！  
超短時間雇用とは

～働きたいと希望を持つ難病患者が、無理なく働くことが可能な地域へ～



講師

東京大学先端科学技術研究センター

教授 近藤 武夫 先生

#### ●パネルディスカッション

「難病患者の就労支援」治療と仕事の両立に必要なこと  
コーディネーター：近藤武夫 教授

パネリスト：①難病の治療と療養、就労について

山田 恵（岐阜大学医学部附属病院 脳神経内科医師）

②岐阜市の超短時間雇用創出事業と難病事例  
大原真須美（岐阜市超短時間ワーク応援センター 施設長）

③難病患者の就労支援について（連携事例）

岩田昌子（岐阜ハローワーク 難病患者就職サポーター）

野口史緒（岐阜大学病院 難病診療連携コーディネーター）

林 宏樹（おひさまの笑顔訪問看護ステーション理学療法士）



難病医療ネットワーク病院の関係者、難病の療養支援に関わる方、就労支援に関わる方、行政（保健福祉、労働）の方、障害者雇用にご理解ある事業者の方など、ご参加をお待ちしています。

事前申し込み  
9月30日（土）  
締め切り

岐阜大学医学部附属病院  
ホームページ

医療機関の方へ

岐阜県難病  
ネットワーク事業



<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/official/nanbyo.html>

事前申し込みサイトから、フォームに必要事項をご記入の上、お申込みください。

ご記入いただいた個人情報は、参加者属性調査と本シンポジウムの連絡用以外は使用しません。

定員（60名に達しましたら締め切り（9月30日）前でも受付を終了させていただきます。）

主催・問い合わせ先：岐阜大学医学部附属病院 総合患者サポートセンター内 難病医療連絡協議会事務局  
TEL058-230-6000 PHS8946・7174 e-mail: tanaka.reiko.c3@mail.f.thers.ac.jp

### 研修会のお申し込み方法

以下の事前申し込みサイトから、フォームに必要事項をご記入の上、お申込みください。ご記入いただいた個人情報は、参加者属性調査と本シンポジウムの連絡用以外は使用しません。



定員（60名）に達しましたら締め切り（9月30日）前でも受付を終了させていただきます。お早めにお申し込みください。



<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/official/nanbyo.html>

岐阜大学医学部附属病院ホームページ → 医療機関の方へ  
→ 岐阜県難病ネットワーク事業 → 岐阜県難病ケアコーディネーター等研修会

**岐阜市超短時間ワーク応援センター**

岐阜市 学園町 2 丁目 33 番地

(岐阜県障がい者総合就労支援センター内)

TEL/058-215-8280

FAX/058-215-8281

<http://www.funabuse.or.jp>

**施設長 大原 真須美 (精神保健福祉士/社会福祉士)**

「超短時間雇用モデル」とは、東京大学先端科学技術センター近藤武夫教授が提唱する新しい働き方で、人手が欲しい企業と短時間で働きたい求職者をマッチングし、雇用を創出する取り組みです。岐阜市は、働くことを通じて全ての人に居場所と出番を創りだすワークダイバシティを目指し、マッチングをサポートする専門機関として「超短時間ワーク応援センター」を令和 4 年 4 月に開設しました。当日は、応援センターの雇用事例などを通じて、現在までの実践をご報告させていただきます。

**ハローワーク岐阜 (岐阜公共職業安定所)**

岐阜市五坪町 1 - 9 - 1

岐阜労働総合庁舎

TEL/058-247-3214

**難病患者就職サポーター 岩田 昌子 (保健師)**

難病による体調不良で退職後の相談や、休職後の職場復帰に向けた相談等を行っています。相談は、潰瘍性大腸炎などの消化器系疾患、脊髄小脳変性症などの神経・筋疾患、シェーグレン症候群などの免疫系疾患の方や、40 歳～60 歳代の方が多くなっています。病状により退職を考えたのですが、短縮勤務や業務変更などの配慮で復帰可能な場合もあり、治療と仕事が両立できないかまずは相談してみませんか。体力回復を図りながら短時間からの段階的な就労や、職業訓練で知識・技術を取得して再就職など、希望の実現を応援しています。

**岐阜大学医学部附属病院**

総合患者サポートセンター内

岐阜県難病医療連絡協議会事務局

岐阜市柳戸 1 - 1

TEL/058-230-7100

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/iryorenkei/nanbyo.html>

**難病診療連携コーディネーター 野口 史緒 (医療ソーシャルワーカー)**

「働くことをあきらめない」をテーマの背景において、多職種が協働して就労支援を行った事例を紹介します。主治医が疾患の進行を経過観察する中で、本人・家族の経済的な不安を把握し、MSW が各関係機関と連携しました。ハローワーク難病患者就職サポーターが、就労につながるよう職業訓練の開始まで伴走し、体力を維持するために理学療法士が介入しました。就労を最終目標とした訪問リハビリテーションの導入は、私たちにとっても初めての試みでした。この研修会で、皆様と事例を共有できることを期待して、報告させていただきます。

**就労相談調査への協力をお願い**

**情報提供**

**難病基幹協力病院(5 病院)、一般協力病院(40 病院)での「就労相談」の状況調査について**

8 月 25 日に、各病院の難病ケアコーディネーターの方充てに、郵送とメールでご依頼させていただきました。本調査は、ベースライン調査として、現在の就労相談の状況を明らかにして、今後の事業等に活用し、これから支援を行う人の参考になる情報提供を目的としています。

調査の回答期限が **9 月 29 日(金)** となっております。ぜひご理解、ご協力いただけますようお願いいたします。

(拠点病院担当者)



**第 11 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会**



会期

11/24 (金)

25 (土)

会場

愛知県産業労働センター(名古屋市)

わー！  
近いね



